

充実した内容 説得力あるビジョン

# クルマよ、 お世話になりました

米モータリゼーションの歴史と未来

ケイティ・アルヴォード 堀添由紀訳

クルマ大国アメリカの知られざる暗黒史を詳述し、クルマに依存しない豊かな生活のための方策を提案する話題作。

著者はまず様々な歴史的事実やエピソードをとおして、アメリカのクルマ大国化を検証してゆく。そこには徹底した作為と詐術があった。鉄道に対しては複雑な規制を設けたり路面電車には自己資金による整備を強要する一方、道路建設に関しては連邦予算を使って着々と推進し、膨大な広告費を投じて他の交通機関を排斥してゆく。こうしたことを陰に陽に策したのが全米自動車協会や石油資本であった。現代の原発推進政策を見る思いがする。本書前半の闇のクルマ発達史だけでも一読に値するだろう。

環境悪化、人格の凶暴化、経済的負担などの弊害を具体的な数字を挙げて展開される第2部につづき、全7章から成る第3部の脱クルマの処方箋は、じつに包括的、詳細にわたり、著者の柔らかな発想には驚くばかりだ。また、クルマ好きの読者にはサスペンスのように読めるに違いない。

本書はその充実した内容と説得力あるビジョンにより、交通問題・環境問題に関わる市民ばかりでなく、ありうべき都市環境をめざす研究者にとっても、持続可能な住みやすい街づくりを推進するための格好の指南書となるだろう。かつて東京五輪が決まった1960年代、私たちは多くの市民に支持されていた路面電車を剥がし「交通戦争」へと突き進んだ苦い歴史をもつ。2020年に向けてどうすべきなのか、本書は多くの示唆を与えてくれるだろう。



ケイティ・アルヴォード *Katie Alvord*

フリーランスの著述家・市民活動家。北カリフォルニアに生まれる。カリフォルニア大学デービス校で生物学を専攻、その後、同大学パークレー校で図書館学・情報学の修士号を取得。30年近くにわたって交通・環境保全などの分野で活動し、「Auto-Free Times」「Buzzworm」「Car Busters」「The Urban Ecologist」「Wild Earth」などに寄稿する。1992年からはクルマとの《離婚》に踏みきった経緯を書く。こうした活動によりクリーンエア最優秀賞(Clean Air Champion award)を受賞。また関連公教育活動でもしばしば表彰され、地域や下院議員のための交通・環境問題アドバイザー委員も務める。1994年、ミシガン州アッパー半島に移住し、夫妻でカーライト生活を楽しんでいる。



2013年  
10月下旬  
刊

■ 四六判 346頁  
■ ISBN978-4-560-08326-0  
■ 定価 3045円  
(本体 2900円)



白水社

101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-24 / <http://www.hakusuisha.co.jp/>  
TEL 03-3291-7811 (営業部) / 03-3291-7821 (編集部: 担当・稲井)